

総合支援学校 高等部  
国語

キーワード 書く 発表する  
発表用ソフトウェア

「文を考えて、発表しよう」

1 単元の学習

単元目標

習った漢字を使った文（3語文）を考え、ノートに書いたり、コンピュータで発表したりすることができる。

対応する学習指導要領の内容

| 教科・領域等                 | 内容等   |
|------------------------|---|
| 国語<br>(知的障害の生徒を教育する場合) | <ul style="list-style-type: none"> <li>手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。</li> <li>相手や目的に応じていろいろな文章を適切に書く。</li> <li>いろいろな語句、文及び文章を正しく読み、内容を読み取る。</li> </ul> |

2 指導略案

単元指導計画

| 指導内容等                            | 時間       |
|----------------------------------|----------|
| 「五十音」・「いろは歌」のひらがなの読み書きをしよう       | 2時間      |
| ひらがなの形、全体のバランス等、細かい部分に気をつけて書こう   | 2時間      |
| 漢字の読みを覚えて、音読をしよう                 | 2時間      |
| 覚えた漢字を使って文を作ろう(コンピュータに入力して発表しよう) | (本時) 2時間 |
| 「おおきなかぶ」「種の旅」の話を読もう              | 1時間      |

本時の目標と展開

【目標】

- 「ひらがな」「カタカナ」「小学校1年生で習う漢字」を的確に読み、書ける。
- 自分の思いや考えを、3語文程度で書ける。
- コンピュータの文字入力に慣れる。
- 自分の作品をみんなの前で発表する。

【展開】

| 学習活動                                      | 教師の働きかけと指導上の留意点(情報機器・教材の活用)   |
|---|---|
| 板書した多くの漢字を全員で読む。<br>『水をのむ』など              | 適宜指名し、読みを確認させる。まだ難しい場合は、教師と一緒に読む。<br>・誤りを気にせず声を出すよう助言し、繰り返して読むことで覚えさせる。   |
| 教師の言う3語文を聞き、黒板に書く。                        | 黒板に書いた文の誤字、脱字をみんなで確認して修正する。<br>・間違えたら訂正すればいいことを強調し、自信をもって書かせる。  |
| 漢字練習ノートに覚えた漢字を使った文を考えて書く。                 | ノートに漢字を使った文を書かせる。<br>・誤字脱字があっても、修正させず、正しい文を教師が示す。   |
| 自分の書いた漢字練習ノートを見て、文字入力する。(プレゼンテーションソフトウェア) | 文字入力の途中で誤字脱字に生徒自身で気づかせるようにする。<br>・ノートパソコンにモニターとキーボードを接続し、クリックパレットを使用して、生徒にはマウス操作だけでほとんどの入力ができるように工夫する。<br>・コンピュータ本体は教師用とし、実態に即して生徒の入力を支援する。 |
| 自分の考えた文を、コンピュータを使って提示し、発表する。              | 文のよいところ、おもしろいところをみんなの前で評価する。<br>・マーカー機能による花丸を使い、コンピュータの画面上でその都度評価する。  |

### 3 展開の実際

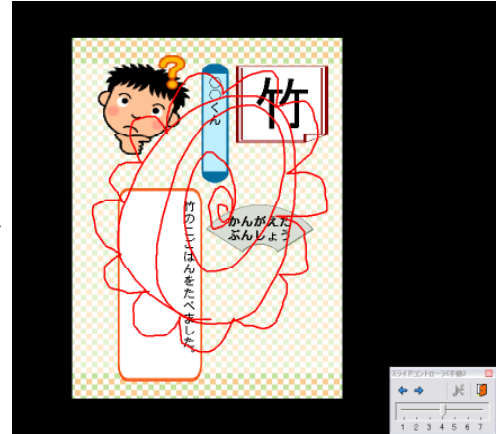
#### 【対象学年・児童生徒】

高等部1年生の知的障害6名のグループで、小学校1年生程度のひらがなや漢字の読み書きを学習している。

#### 【自信をもった活動】

生徒は、経験したことを言葉で表現することができるが、ひらがなや漢字の読み書きの指導を継続しているにもかかわらず、文章表現につまずいたり、手指の巧緻性や形の認識面での未発達から、文字をきれいに書くことが難しかったりする生徒も多い。

そこで、コンピュータを使って、自分が考えたことを他者に読みやすい文章を表現することにより、自信をもつことができるようになる考えた。また、コンピュータに文字入力する際に、自分の書いた文字をひとつずつ確認し、自分で誤字脱字に気付くことができるようになることで、学習へのより主体的な取組みにつながると考えた。



#### 【ソフトウェア】

「はっぴょう名人」(ジャストシステム)

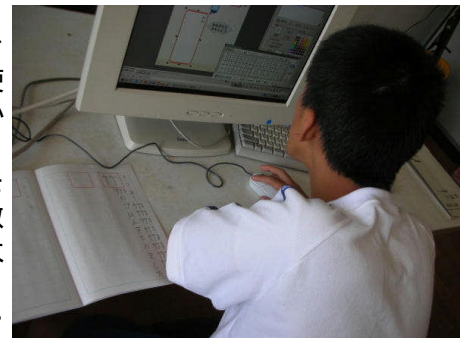
### 4 情報機器等の活用の工夫

#### 【さりげない教師の支援】

生徒にとって、コンピュータへのローマ字入力は難しいので、ひらがな入力を選択した。しかし、文字配列が50音表と大きく異なり、使いづらくなっているため、クリックパレットを使用し、50音表でのマウス入力にすると、生徒は理解しやすかった。

生徒がコンピュータを誤操作すると、生徒にマウスの操作を中断させ、時にはコンピュータの前から生徒を移動させて、教師が修正しなければならない。これでは、生徒の学習意欲は大きく損なわれ、主体的に活動することが難しくなる。

そこで、ノートパソコンに液晶モニターとマウス、キーボードを接続し、ノートパソコン本体を教師が操作し、誤操作のたびに生徒から入力装置を離すことなく指導できるようにした。このような工夫により、生徒が教師からの支援を意識せずに、主体的に取り組む環境を整えることができた。



### 5 情報機器等の活用の効果

#### 【やる気を引き出す文字指導】

コンピュータの導入により、ひらがなや漢字の読み書きでは、はねやとめ、はらい、全体の形のバランスなどに気をつけて、きれいな文字を書こうとする意識が少しずつ身に付いてきた。これまで、手指の運動機能や巧緻性の未熟さから、思うように書けなかったり、字を書くのに時間を要して意欲を失ったりしていたが、コンピュータの活用により生徒の文字学習への意欲が高まってきた。

ノートに文字や文章を書く時間と、コンピュータに入力する時間とを比べてみると、若干後者の方が早い。実際には少しの差であるが、生徒は、コンピュータ入力の方がかなり早いと感じている。それは、印刷によりすぐにきれいに仕上がる、間違えや脱字の修正がすぐにできる、非常に集中して取り組んでいることなどが要因として考えられる。また、コンピュータ入力に慣れることで、この差は広がることも予想される。教師のさりげない支援も回数を重ねるごとに減り、生徒によっては支援を全く必要としなくなると思われる。

これまで、国語の学習に自信がもてずに消極的だった生徒が、「またやりたい。」「コンピュータを使いたい。」などと申し出てくるようになった。また、ノートに書く学習にも一生懸命に取り組むなど、効果が目に見えて現れるようになってきた。